

冬の号 H23/12
～ H24/2

通巻 357号
2012年 1月20日発行

季報 αópio (アヴリオ) 「あした」
URL : <http://tootoumi.or.jp>
E-mail : tootoumi@na.commufa.jp

1976年5月18日創刊
発行：社会福祉法人 遠江学園
浜松市北区三方原町 1771-1
Tel053-430-1238
季刊情報誌

**新年明けましておめでとうございます。
新しい年への期待とよろこびを、皆さまと共に、まず分かち合いたいと思います。**

(福) 遠江学園の新年の事業として

1. 就労継続支援になじめない利用者さんのニーズに応える形で「ひくまの」が1月から多機能型へ移行しました。定員50名の内、15名が生活介護事業に所属し、個性に向き合った活動をしていこうということになりました。長年温めていた事業です。
2. 「やしま青年寮」は障害者自立支援法への移行の最終年度となるこの2月、共同生活介護（ケアホーム）へ移行する予定で、準備をすすめています。
3. もう1つの共同生活介護事業（ケアホーム）の新規開設へ向けて、動き始めました。或る保護者のご好意により、借地として、土地の提供がありましたので、ショートステイ等、ご家族の長年の夢が結実するよう、行政の力をお借りしたいと考えております。

仲間たちの幸せとは、どういうことか、ご本人やご家族の気持ちに添うことができれば、本当にありがたいですね。

昨年は、大地震や台風の大きな被害に、胸が痛みました。自分達の生活を見直すと共に、かけがえの無い命の大切さを学びました。今回、静岡県ボランティア協会等の事業で、当学園としては職場環境を整え、各自が休日と費用を使い、5名の若手職員が被災地の視察やガレキの撤去等のボランティア活動に参加させて頂きました。

これは、職場に戻ってからの感想です。

『あの人たちは、どんなふう立ち上がるのだろう』

『振り返って、この位のことで苦しいなんて云ってはいけなさと、自分を戒めることが増えた』

『被災現場に立たなかったら、こんなに辛く感じなかった。力を合わせて何かしなければと、今も思う』

ひとは、大きなことに合うと非常に謙虚になれると感じます。

今年は、まずそういう方達が事業所を底辺から支える強い力になると、私は信じています。

私共は、来るべき東海地震に備え、通所の仲間たちの安全確保と福祉避難所としての役割、また発災時、関連施設との協力体制等、叡智を集めなければならないことが山積みしており、身の引きしめる思いを噛みしめているところであります。

皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

社会福祉法人 遠江学園 理事長 荒岡倫子



新しく加わったミニトマト収穫作業

施設ニュース・成人のつどい特集

就労継続支援事業所(B型)ひくまの
 // みなみ
 // まつかさ作業所

★成人を励ますつどい (平成24年1月11日)

今年、本間健太さん、宮浦匠さん、宮澤彰吾さんの3名が新成人となり、ひくまの、みなみ、まつかさ作業所の仲間たち、来賓の地域の方々・理事さん等、約120名から祝福を受けました。

新調した背広にネクタイ、ちょっと緊張気味の表情を浮かべながら、大人の仲間入り。

一步一步、それぞれの歩みでしっかり前へ進みます。

成人おめでとうございます！



いただいた色紙を披露する新成人たち



司会進行役の
まつかさ作業所 小野さん

励ましの言葉を贈る
ひくまの 松山さん



仲間たちから歌のプレゼント
必ず「栄光の架け橋」♪



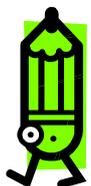
みんなお楽しみ、福引き抽選会！

フ リー コ ラ ム

成人の門出を迎え、働くことや工賃の意味について、まつかさ作業所職員 杉田憲彦さんのコラムです。

「働く」ということ。

—— 共に喜び、やりがいを感じながら ——



この度、(福)遠江学園の三事業所に在籍する、三名の利用者さんが新成人として大人の仲間入りをされました。おめでとうございます。今後、この新成人三名の方も含め、利用者さんたちが、社会人の一員として、地域社会でのつながりを深め、自立した生活につなげていくことが、私たち支援者にとっても大きな課題となります。

そのなかで「働く」ことは、重要な要素となります。一般就労を目指す、経済的な基盤を得ることは、もちろんのことですが、それ以外のことにつきましても、意義は計り知れず大きいものであると思われ

ます。

まず、基本的な生活習慣の確立につながっていきます。また、他者と協力することを学んだり、仲間もできます。また、働く喜びや意欲が、生きていくうえでの自信や自己実現の大きな一步になることも期待できます。その他、働くことを通して様々な力が養われていきます。

それぞれ、利用者さんにとって、働くことの多様性はあるかもしれませんが、大きな意義があることには変わりありません。

遠江学園では、この度、工賃の分配規定について見直しをさせていただきますました。(※)そのなかで、工賃に対する考え方として『出来高とともに働く意欲とよるこびを評価し、仕事の完成度を高めて、社会でよりよく生きるための修練を至上の目標とする。』としています。工賃と言うには、あまりに少額で不本意ですが、工賃を受け取る

ことによって、働くことへの励みにつながればと思っております。

私自身も、利用者さんたちがいるなかで、働かせていただいております。この仕事をさせていただいていることに対し、責任と感謝の気持ちと誇りを持ちながら、共に喜び、やりがい、生きがいを感じあえるような支援をさせていただきたく思っております。

(※平成二十三年十月改定)